

縁日に旅芸人も来た

逆井漫歩37



船戸木戸のバス停から医王寺に行く道の右側に、ピッカピカの神社が出現した。大理石の輝くばかりの鳥居が信心よりも、興味津々の散歩者を招いているようでもある。

増田堅太郎さんが、屋敷内にあった、先祖が明治十年ごろに建てた金刀比羅宮を改修した。祠は二つ、一つは伏見稲荷である。小さいけれど、本格的な宮大工さんの仕事、昨年の十一月に完成したばかりである。

こちらは鳥居もある改修

奥社まで一三六八段、本宮までも七八五段の階段を登らなければならぬ。四国は香川、琴平町の金刀比羅宮。海の神様だが、庶民信仰は全国津々浦々にまで及んでいる。

すぐそこに信者が分宮した祠がある。秋の日を浴び拝ませてもらいましょう。



♪金比羅船々 追手に帆かけて
シユラシユシユシユ

へら鮎センターの金刀比羅神社



「正月十日の縁日には幟が立ったし、夜店も出たし、旅芸人まで来てにぎやかでした」逆井小と背中合わせにある「へら鮎センター」の日暮一雄さんは、懐かしそうに昔を語る。

その幟が立ったという金刀比羅神社は、同センターの入り口のつきあたり、林を背に鎮座している祠。

縁日に旅芸人が来たのは、昭和十年ごろまでの話のようで、逆井の村人の信心を集めていたという。

明治の初期に日暮六兵衛家四代目が分宮、五代目が改築、七代目の当主一雄さんが昭和五十二年に草屋根を銅板亀甲型に改修した。外屋根に守られた、可愛い祠である。

山あいの畑ばかり、それに木々におおわれているから日照不足、雨が降るとぬかるみになる。そこにへら鮎センターを作ったのは釣り好きの七代目、昭和三十二年のことだった。面積六百坪、最深处三メートル、井戸三本で五、六十メートルから水を汲み上げている。泳いでいるへらぶな四万匹、百十人の釣客OK。繁盛ぶりは金比羅様のおかげ？いいえ、信心は商売とは関係ありません。日暮さんは、そういうのである。

